

contents

平成17年度新収蔵品紹介	[2~5]
岡倉天心の英文三部作初版本がそろいました	[6]
表紙紹介	[6]
平成18年度展覧会案内	[7]
お知らせ	[7]
賞館情報	[8]
日本まんなか共和国	[8]

〈表紙：岩佐又兵衛勝以「須磨」(部分)〉



平成17年度

新収蔵品紹介

福井県立美術館の平成17年度新収蔵品をご紹介します。17年度は、購入6件8点、寄贈5点、合計11件13点の新収蔵品がありました。またこれ以外に57点の寄託がありました。

購入寄贈のリストは下記のとおりです。

■ 購入

- [日本画] 1. 曾我紹仙作「寒山拾得図」
室町時代(16世紀) 87.8×43.4cm 紙本墨画 軸装
2. 岩佐勝重作「歌仙図屏風」
江戸時代初期(17世紀) (各)63.7×28.3cm
紙本著色 屏風装(6曲1隻)
3. 岡 不崩作「山水図」
大正5(1916)年 (各)112.5×42.5cm
絹本著色 軸装 対幅
- [彫刻] 4. 山田鬼斎作「鷺」
明治28(1895)年 直径41.0cm 木・レリーフ 額装
- [版画] 5. マルク・シャガール (Marc Chagall) 作
「サン・ポールのあけぼの (Aurore à Saint Paul)」
1968年 56.0×38.0cm (イメージサイズ)
紙・カラーリトグラフ 額装
- [その他] 6. 岡倉天心書簡 (文部秘書官正木直彦宛)
明治30(1897)年
岡倉天心書簡 (東京美術学校長正木直彦宛)
明治34(1901)年
横山大観英文書簡 (アイナ・サースビー宛)
明治39(1906)年

■ 寄贈

- [日本画] 1. 渡辺菜渚作「晴霞浄艶・朝陽鶴涙・泉聲松韻」
昭和11(1936)年 (各)130.0×40.0cm
絹本著色 軸装(三幅)
2. 渡辺菜渚作「松鶴図屏風」
昭和前期(20世紀) (各)167.0×127.0cm
紙本著色 屏風装(2曲1双)
3. 古沢岩美作「火鳥」
昭和29(1954)年 100.0×65.2cm カンバス、油彩 未装
4. 古沢岩美作「メデュサ(エスキース)」
昭和34(1959)年 177.5×61.0cm 紙、コンテ、パステル 額装
5. 内藤堯雄作「玄牝」
昭和(1972)年頃 38.3×30.1cm 木、レリーフ 額装



【購入1.】曾我紹仙作「寒山拾得図」

曾我紹仙は室町時代後期の越前曾我派の絵師で、曾我宗丈の子と伝えられ、朝倉孝景所持の瀟湘八景図を描いた曾我兵部景種と同一人物とされます。履歴や活動については不明な点が多いのですが、おおよそ16世紀前半の活動が想定され、宗丈同様に越前朝倉氏や大徳寺周辺で活動したと考えられています。作品には山水や人物がありますが、現存作例は多くはありません。



【購入3.】岡 不崩作「山水図」





【購入2.】岩佐勝重作「歌仙図屏風」

本作「寒山拾得図」は、松下で背中合わせにたたずむ寒山拾得を描いたものです。寒山拾得は中唐末頃、天台山国清寺に住んだと伝えられる隠者で、寒山は文殊の、拾得は普賢菩薩の化身とされ、道釈画の好画題として日本でも水墨画の普及にとともに多くの作例が残っています。ここに見られる破衣、蓬髪姿と傍らの箒の組合せは、寒山拾得図としては通例のもので、紹仙の人物画としては、他に曾我派に縁の深い大徳寺真珠庵の「一休宗純像」と「草座釈迦像」があります。また本図に捺された印は先の「草座釈迦像」と同印ですが、本図のような略筆のものは他にあまり例を見ないものです。

岩 佐勝重は江戸初期の岩佐派の絵師で岩佐又兵衛の長男です。生年は不詳ですが、延宝元年(1673)2月20日に福井で亡くなっています。父に絵を学び、父又兵衛没後その跡を継ぎ、岩佐派の二代目となりました。その活動は又兵衛以上に不明ですが、福井藩の御用絵師となり、寛文11年(1671)には再建された福井城本丸御殿鶴之間などの障壁画制作に絵

筆をふるったことが知られています。

本作「歌仙図屏風」は、六曲一隻屏風の各扇に男女六人を描いて押絵貼にした作品です。その姿から歌仙を描いたものと考えられ、全ての人物の特定は難しいものの、第1扇目は柿本人麿、第3扇目は僧正遍昭、第6扇が在原業平と推定されます。描かれた歌仙のうち、業平は又兵衛の「在原業平図」(出光美術館蔵)に、第2扇目の女性像は「官女図」(MOA美術館蔵)と姿形がほぼ一致し、制作に際し又兵衛作品を粉本としたことがうかがえます。各図に「勝重」朱文二重円印が捺されていますが、本印は数種ある勝重印のうちでも最も基準となるものです。

岡 不崩は1869(明治2)年に福井県大野町に生まれました。明治13年に上京し、狩野芳崖に師事します。また明治22年には天心の勧めにより第一期生として東京美術学校に入学しますが、翌年には退学し、図画講師として高等師範学校へ赴任します。これは、日本の図画教員養成の中心に、毛筆画(日本画)勢力を送り込もうという天心の意図によるものでし

た。因みに女子高等師範には、福井出身で同窓の岡倉秋水(天心の甥)が同じく派遣されており、福井という地縁により天心と結ばれた人々が、さまざまな形で天心の理想の実現に貢献したといえます。

本図は、左幅に春景右幅に秋景を配し、狩野派の伝統的な構成の中に、自然主義的な描写の趣を加えた穏和な山水図となっています。東洋画の真髄の発揚を目指した不崩の求めた独自の画境がうかがえる貴重な作例といえます。不崩の作品には「草花」と「山水」の二系列がありますが、既に収蔵されている「菊花図双幅」は「草花」の系列にあたり、本作は「山水」の系列に属します。

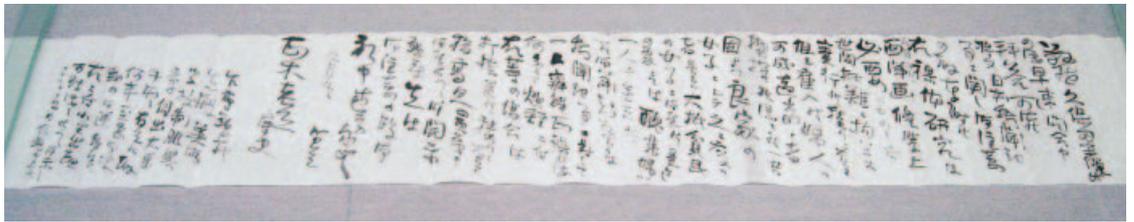
山 田鬼斎は1864(元治元)年に福井県坂井郡三国港に生まれました。父は仏師として名の高かった鬼戸久三郎で、この父から彫刻技術を教わりました。明治19年には、岡倉天心の母親このが三国出身だったこともあり、この縁を頼って上京し、岡倉天心の知遇を得ることになります。それからは天心にかわいがられ、明治22年には東京美術学校の彫刻科で教え始めます。



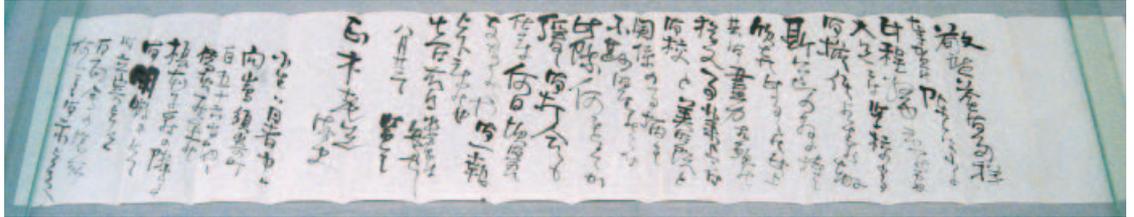
【購入4.】山田鬼斎作「鶏」

■ 購入について

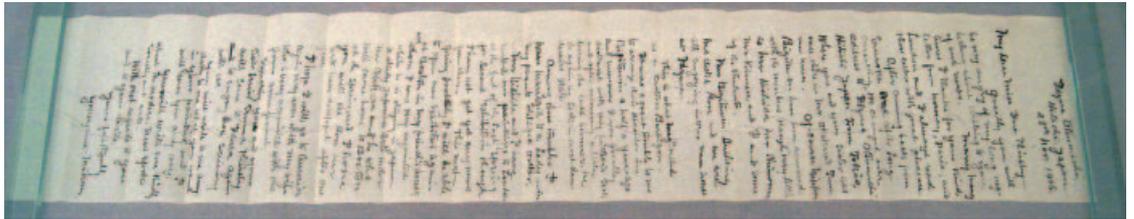
福井県立美術館では開館以来、①岡倉天心ゆかりの作家作品、②福井ゆかりの作家作品、③洋の東西、時代を問わず優れた作品、の三つの原則に基づき作品を収集してきました。今回の購入では、1.と2.は②の収集方針で、3.と4.は①と②の両方に関係しており、6.は①の収集方針に關したものです。また5.は③の収集方針に入りますが、この③の収集方針では、西洋版画を少しずつ集めてきています。今回のシャガール版画もこの方針に従った収集となります。



【購入6.】岡倉天心書簡（文部秘書官正木直彦宛）



【購入6.】岡倉天心書簡（東京美術学校長正木直彦宛）



【購入6.】横山大観英文書簡（アイナ・サースビー宛）

またその翌年には天心の妹てふ（蝶）と結婚します。その後、皇居にある「楠公像」や上野公園の「西郷隆盛像」の木型を制作し、シカゴ万国博覧会に「平治物語図」を出品するなど活躍し将来を囑望されますが、惜しくも明治34年に享年38歳で早世します。

二羽の鷺が闘っている図様の本作は、代表作のレリーフ「平治物語図」に時代的に近いこともあり、「平治物語図」に通じる腕の冴えを見せる秀作といえます。

マルク・シャガールは日本でもエコール・ド・パリの画家の一人として親しまれています。日本で最も知られている西洋の画家の一人といえるでしょう。生まれはロシアですが画家としての人生の殆どをフランスやアメリカで過ごしました。故郷ヴィテブスクの郷愁を幻想的な表現で描いた戦前の油彩画が高く評価されていますが、30台半ばで初めて版画を制作してからは版画制作にも力を入れ、生涯に2000点以上の版画を作ることになります。またその制作数のみならず、1948年に第24回ヴェネツィア・ビエンナーレで版画部門のグランプリ受賞したことから分かるように、質的にも世界の美術史の中でも最も重要な版画家の一人といえます。



【購入5.】マルク・シャガール（Marc Chagall）作
「サン・ポールのあけぼの（Aurore à Saint-Paul）」

本作「サン・ポールのあけぼの」は、シャガールが1966年に最後の居住地となるサン・ポール＝ドゥ＝ヴァンスに移ってから2年後に制作されたもので、中世の美しい城塞町であるサン・ポールを背景に、温かみのある色彩と幻想的風景がシャガール版画の特徴を良く表しています。

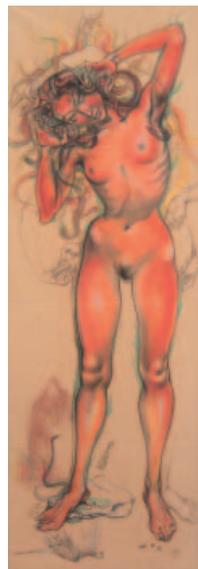
岡倉天心は明治30年当時、東京美術学校長であり、文部秘書官正木直彦宛に自分の行った美術研究の方法に関する弁明を手紙に書き送っています。即ち当時天心が行っていた裸婦モデルを使った修学や死体解剖に『日本』新聞が批判的記事を書いたのに対して、これらは西洋画修学上必要なもので、モデルも醜業婦は使っていないと弁明しています。

もう一通は、明治34年に当時美術学校長になっていた正木直彦宛に書いたもので、自分の主宰する日本美術院と東京美術学校との関係を修復しようとして、秘密裏の交渉を持ちかけたものです。

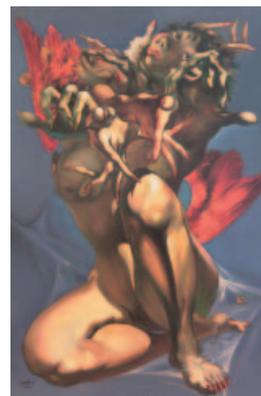
横山大観は、明治39年に天心たちの支援者であったアイナ・サースビー宛に英文の手紙を送り、美術院が五浦に引っ越したこと、自分が結婚したことなど近況を書いています。これら3通の手紙は共に安田鞞彦が旧蔵していたもので安田



[寄贈1.] 渡辺菜渚作「暗霞浄艶・朝陽鶴涙・泉聲松韻」



下:[寄贈3.] 古沢岩美作「火鳥」
左:[寄贈4.] 古沢岩美作「メデューサ(エスキース)」



[寄贈2.] 渡辺菜渚作「松鶴図屏風」



[寄贈5.] 内藤堯雄作「玄牝」

靱彦自筆の箱書きがある箱に入っています。

■ 寄贈品紹介 ■

以上の購入品のほかに、今年度は5点の寄贈品があります。渡辺菜渚は明治8年福井県今立郡粟田部村(旧今立町)に生まれました。同じく福井出身で京都府画学校(京都市立芸術大学の前身)の教授でもあった河野菱渚に師事します。その後東京美術学校日本画科に入学、卒業後は、絵画共進会や勲業博覧会、文展などに作品を発表し、たびたび受賞するなど早くから優れた才能をみせています。当初は写生や西洋画の空間構成による歴史人物画を描いていましたが、後半は一転して南画による山水画

を主として描きました。今回寄贈の2作品は何れも晩年に近い頃の南画手法による作品です。

古沢岩美は日本を代表するシュール・レアリズムの画家ですが、昭和26年に福井の重要な美術運動団体である北美文化協会が主催した第3回北美夏期洋画講習会の講師として来福しており、福井とゆかりのある画家です。昭和26年の来福時に制作した作品群は昨年当館に収蔵されましたが、本年度は昨年の収蔵を受けて、絵としてはより古沢岩美らしい作品の寄贈を受けたものです。

内藤堯雄は、武生市に在住しながら木彫の作品を制作していた彫刻家です。新制作協会展を主な作品発表の場として活動

していました。新制作協会で何度か新作家賞を受賞しており、これらの作品は抽象あるいは抽象化された作品でしたが、彼の個性が最も表れているのは具象作品で、まるで座敷童のような不思議なイキモノを表した作品群が評価されています。「玄牝」というのは道経の中で現れる言葉で、女性(牝)にたとえ、万物の生まれてくる道を意味します。小品ながら彼の個性が良く現れた秀作といえます。

福井県立美術館では、このたび資料として、岡倉天心の英文三部作といわれる『東洋の理想』、『日本の覚醒』、『茶の本』の初版本を入手しましたので、ここで簡単にご紹介します。

これらはいずれも天心が日本の文化や歴史、思想などを世界に紹介するために原稿を英語で書いたもので、いずれも出版後すぐに大変な人気が出て、現在まで多くの版が重ねられてきているものです。特に『茶の本』は多くの言語に翻訳されて世界中で読まれたものです。

『東洋の理想』は

1901年に日本で起稿し、1902年にインドで原稿を仕上げ、1903年にロンドンのジョン・マーレイ社から初版が出版されたものです。Asia is one (アジアはひとつ)の有名な言葉で始まるこの本は、本章で多くの部分を日本の文化・宗教・思想・芸術などの歴史に裂きながら、古代インドから中国を経て日本にい

たる東洋文明発展の流れをたどろうとしています。またアジアの伝統的な暮らしがヨーロッパに比べて劣るものではないとした上で、アジアの課題はアジアの様式というものを守り、再建することで、そのためにまずそうした様式を認識しその自覚を高めなければならないと主張し、アジアの連帯や自覚を促しています。

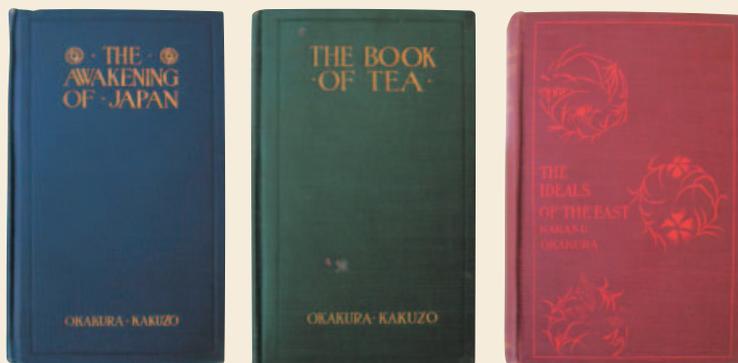
『日本の覚醒』は日本で起稿しボストンで脱稿、1904年にニューヨークのセンチュリー社から初版が出版された

ものです。アジアの夜という言葉で、日本も含めたアジアの国々が欧米に比べ沈滞してきた状況を歴史的に、政治、宗教などの観点から検証しながら、近代の日本の覚醒は、実は西洋からもたらされたのではなく、江戸時代の思想活動が日本に覚醒をもたらす大きな原因になったとしています。また同時に日本が世界の尊崇を要求するには、我々自身の理想に忠実であること忘れてはならないと日本人の自覚を促しています。

『茶の本』は在米中の1904年の秋頃から構想され、1906年5月にニューヨークのフォックス・ダフィールド社から初版が出版されたものです。

天心が西欧に向けて茶道を中心に日本文化の特色を説明した本で、茶の歴史、茶室、茶道の作法、茶道における花の扱いなどについて触れながら、「茶の哲学は倫理と宗教にむずびついでいて、人間と自然に関するわれわれの全見解を表現している」と茶道の本質的特徴について語っています。またその

岡倉天心の英文三部作初版本がそろいました



思想的背景として、「茶道の理念はことごとく、暮らしのごく瑣末な出来事の中に偉大さを見出すという禅の考え方に由来する。道教によって美学的理念の基礎が築かれ、禅によってそれが具体化されたのである」と、禅と道教の思想を挙げています。また、茶は東洋文明が到達した最高の哲学、世界観の実践であり、その茶の理想の頂点が日本にあると宣言しています。

表紙
解説

「須磨」(和漢故事説話図のうち) 1幅 岩佐又兵衛筆



紙本著色
縦36.0×横59.1センチ
江戸時代(17世紀)
福井県立美術館蔵

『源氏物語』第十二帖「須磨」に取材した作品。朧月夜との情事が明るみとなり須磨に流された光源氏。遠い都を想いながら配所でわび住まいを送っていたが、三月上旬巳の日に浜辺で開運の祓を行おうとしたところ、突然の暴風雨に襲われる。風雨にもまれる樹木や蛇行する垣根の描写に、主人公の不安な心情がうつし出されている。

本図は又兵衛50代の作品で、岡山藩主池田家に伝来した和漢の故事・物語を12図に描いたうちの1図。

平成18年度事業案内

平成18年度の企画展、所蔵品によるテーマ展、移動美術館は下記の通りです。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

企画展

7月28日(金)～8月27日(日)

水木しげる展 (仮称)

「ゲゲゲの鬼太郎」「悪魔くん」「河童の三平」などで知られる漫画家・水木しげるの作品とその人生をドキュメンタリー風に構成した展覧会。妖怪漫画ばかりでなく、戦記漫画やこれまで未公開となっていた原画の初公開など、自伝やエッセイに至るまで非常に幅広い作品を紹介いたします。「妖怪研究家」として名高い水木が世界中から集めた民族資料なども展示し、50年以上におよぶ水木しげる特有の世界を実体験していただく「現実と空想の展覧会」です。



「鳥取県でつくる鬼太郎一家」 ©水木プロ



菱田春華「落葉」(右隻)

9月5日(火)～9月30日(土)

岡倉天心「茶の本」出版百周年記念特別展示

2006年は岡倉天心が「茶の本」を出版してちょうど100年目に当たります。これを記念して「茶の本」初版本や天心の手紙他資料、天心ゆかりの作家たちの作品を展示します。また記念講演も行います。

10月6日(金)～11月5日(日)

伝統の検証者たち (仮称)

美術において「伝統」とはどのような意味を持つのでしょうか？また作家たちはそれといかに対峙し、創作活動を行っているのでしょうか？本展は上村松園・松篁・淳之と、徳岡神泉、小野竹喬、下保昭ら6名の日本画家と、建築家中村昌生、そして陶芸家の樂吉左衛門ら、いずれも伝統の都京都市を中心に大きな足跡を遺し、また現在も活躍中の作家たちの作品を通じて、各自における伝統とは何かを問う展覧会です。



上村松園「花がたみ」
松伯美術館蔵

3月2日(金)～3月28日(水)

造形集団 海洋堂の軌跡

お菓子のおまけである「食玩」という分野で絶大な人気を集める海洋堂は、1964年に模型店として出発しました。以来、造形文化の啓蒙活動を続け、80年代からはアニメや漫画のキャラクターを高いクオリティで立体化し、「オタク」の圧倒的な支持を集めていきます。90年代後半には、大量生産、低価格の食玩という分野を開拓し、一大ブームを起こしました。本展では、海洋堂が製作した食玩や模型、原型師の仕事を紹介するとともに、戦後の模型文化の歴史を振り返り、現代日本のサブカルチャーの根源を探ります。



食玩「ハロウェルアマガエル」
2004年 ©KAIYODO

<http://www.kaiyodoten.com/>

所蔵品によるテーマ展



楠部彌弼「彩斑八つ橋花瓶」

4月6日(木)～5月21日(日)

平成17年度新収蔵品紹介

マルク・シャガール
「サン・ボールのあけほの」
曾我紹仙「寒山拾得図」 ほか

工芸の美

富本憲吉「赤地金彩寿字香炉」
羽田登喜男 変態縮緬地友禅訪問着「花野」
楠部彌弼「彩斑八つ橋花瓶」 ほか



木村武山「伊勢物語図」(左隻)

5月26日(金)～7月16日(日)

絵になった物語

木村武山「伊勢物語図」
岩佐又兵衛勝以「和漢故事説話図」
ウイリアム・ブレイク「ヨブ記」 ほか

7月28日(金)～8月31日(木)

アートのなかの生き物たち



岩佐源兵衛勝重「群鶴図」(右隻)

加山又造「人と駱駝」
岩佐源兵衛勝重「群鶴図」
狩野興以「韃靼人狩獵図屏風」
ほか

共催展・移動美術館など

4月22日(土)～5月21日(日)
黒澤明アート展 (共催展)

8月4日(金)～8月15日(火)
移動美術館小浜展1
(会場:小浜市・福井県立若狭歴史民俗資料館)

9月9日(土)～9月22日(金)
移動美術館敦賀展
(会場:敦賀市・プラザ萬松)

11月17日(金)～11月26日(日)
第57回県総合美術展
(共催展)

2月10日(土)～2月18日(日)
福井県立美術館
実技講座受講生作品展

2月28日(水)～3月5日(月)
福井県立美術館友の会
実技講座受講生作品展

3月16日(金)～3月27日(火)
移動美術館小浜展2
(会場:小浜市・福井県立若狭歴史民俗資料館)

10月6日(金)～11月5日(日)

現代の表現者たち

小野忠弘「イレズミダンス」
榎尾正次「藍染の三角形」
宇佐美圭司「円形劇場・底抜け」 ほか



小野忠弘「イレズミダンス」

12月1日(金)～1月14日(日)

特集・ドーミー

「ラタポワール」「ロベル・マケール物語」
「ラ・カリカチュール」「人生の美しき日々」 ほか

1月3日(水)～1月14日(日)

新春特別展示 華・花・美人

下村観山「魚籃観音」
木村武山「日盛り」
岡 不崩「菊花図」
ほか



岡不崩「菊花図」

1月19日(金)～2月24日(土)

曾我派と岩佐派

曾我直庵「松柏に鷹図屏風」
小島亮仙「山水図」
岩佐又兵衛勝以「三十六歌仙図」 ほか



岩佐又兵衛勝以
「三十六歌仙図 在原業平」

岡島コレクション

後藤程乗「貝尽図目貫」
後藤即乗「這龍図目貫」 ほか



ポール・ゴーギャン
「かくわしき大地」

3月2日(金)～3月28日(水)

美術でめぐる旅、人、風景

ポール・ゴーギャン「かくわしき大地」
横山大観「老君出関」
歌川広重「越前湯之尾峠」 ほか

お知らせ

<5月～7月の休館日について>

展示替え、館内メンテナンス等のため、
5月8日(月)、22日(月)～24日(水)、6月5日(月)、19日(月)、7月3日(月)、7月18日(火)～27日(木)は、
 休館とさせていただきますのでご了承ください。

schedule

貸館情報

- | | |
|---|------------------------------------|
| 5/3～5/7 ● むさび校友会 福井支部展 | 6/22～6/25 ● 第47回 九龍社書展 |
| 5/11～5/14 ● 第34回 書法研究石門展 | 6/22～6/25 ● 現代美術・L展 |
| 5/18～5/21 ● 暮らしを彩るキルト展 | 6/22～6/25 ● プレアデス会洋画展 |
| 5/25～5/28 ● 第15回 紫陽花展 | 6/28～7/2 ● 第7回 力カ・斜展 |
| 5/25～5/28 ● 第8回 バレット・JIN絵画展 | 6/28～7/2 ● 第6回 ひろの会日本画展 |
| 5/25～5/28 ● 保坂美恵子 farewell展 | 6/29～7/2 ● 第20回記念白椋会洋画展 |
| 5/25～5/28 ● 旅の回想 | 7/4～7/9 ● 人生暦 河原進の歩み展 |
| 5/31～6/4 ● 第32回 福井県水墨画協会展 | 7/5～7/9 ● 第46回 ペンペン会展 |
| 6/1～6/4 ● 第21回 沙久羅会日本画展 | 7/5～7/9 ● 福井県写真作家連盟展 |
| 6/2～6/4 ● 藤島高校美術部展 | 7/7～7/9 ● 第32回 福井県デザインコンクール
作品展 |
| 6/2～6/4 ● 尚山会水石展 | 7/11～7/13 ● 愛石展 |
| 6/8～6/11 ● 第56回 県書道展・県現代書作家展 | 7/13～7/17 ● 北陸一陽展 |
| 6/14～6/18 ● 第9回 大潮会近畿北陸支部美術展 | 7/15～7/17 ● 第27回 書玄会展 |
| 6/14～6/18 ● 第4回 夢美の会&グループY-wai
合同展 | 7/15～7/17 ● アトリエ・ターコイズ |
| 6/15～6/18 ● 笑夢の会水彩画展 | 7/15～7/17 ● 遊和会書展 |
| 6/16～6/25 ● 平成18年度 FUAAAクリエイティブ・
オブ・ザ・イヤー作品展(仮称) | 7/28～7/30 ● 第34回 福井県朝日写真展 |

5/3～7/30

広報板

日本まんなか共和国

日本の東西文化の境界にある四県(岐阜、三重、滋賀、福井)が連携し、より効果的な文化活動を行うため、先進的な「日本まんなか共和国」の創造を目指しています。

滋賀県立近代美術館

大津市瀬田南大萱町1740-1 TEL:077-543-2111

生誕120年 川端龍子展

4月11日(土)～5月21日(日)

日本美術院を舞台に日本画家として地歩を固めた川端龍子は、後に展覧会という「会場」において、観衆である大衆に訴える力を持つ作品を志向し、大作主義による「会場芸術主義」を掲げました。美術院を脱会し、1929年自ら日本画団体・青龍社を創設。その生誕から120年という節目にあたって、異端とも言われた龍子の画業を、代表作を通じて振り返ります。



一般 900円(700円)/高大生 650円(500円)/小中生 450円(350円)
 ※ 括弧内は、前売りおよび20名以上の団体料金

画家泉茂の写真展

5月27日(土)～6月25日(日)



泉茂は津高和一らとならび、画家・版画家として関西の現代美術を代表する存在です。彼が1960年代のニューヨークにて、作家の目でとらえた街角風景写真を紹介します。

岐阜県美術館

岐阜市宇佐4-1-22 TEL:058-271-1313

損保ジャパン東郷青児美術館大賞と池口史子展

—現代へのまなざし—
 4月7日(金)～5月7日(日)

「損保ジャパン東郷青児美術館大賞」は、毎年優秀な作品を発表した洋画家1名に授与されてきました。2004年の第27回大賞は池口史子が受賞しました。この画家は、1980年代後半から手がけた広い大地の光景や異国の町並みを描いた風景画で独自の絵画を展開してきました。本展は、東郷青児と主な大賞受賞者の作品とともに池口史子の絵画の世界を紹介します。



池口史子「ワイン色のセーター」2002-2003年

一般 700円(600円)/大学生 500円(400円)/高校生以下 無料
 ※ 括弧内は、20名以上の団体料金

愛知・三重・岐阜三県立美術館協同企画No.2 ルドンとその時代

7月8日(土)～8月20日(日)

三県協同企画の第2弾。岐阜県美術館のルドン、愛知県美術館のクリムト、三重県立美術館のモネ、ルノワールなどフランス、ドイツ、オーストリアの近代西洋絵画、素描、版画、約200点が一堂に。

三重県立美術館

津市大谷町11 TEL:059-227-2100

エドゥアルド・チリダ展

4月11日(火)～5月21日(日)

スペインのバスク地方出身の彫刻家エドゥアルド・チリダは、スペインをはじめとする欧米の各地に設置された屋外彫刻によって知られています。彼の作品はその規模の大きさゆえに、これまで日本ではほとんど紹介されていませんでしたが、今回の展覧会は彫刻家の故郷サン・セバスチャン近郊にあるチリダ・レク美術館の全面的な協力により、彫刻家の多面的な姿を紹介しようとするものです。



「夢の金床Ⅲ」1962年 鉄・木
 テレフォニカ・アート・コレクション

一般 1000円(800円)/高大生 800円(600円)/小中生 500円(400円)
 ※ 括弧内は、20名以上の団体料金

ウィーン美術アカデミー名品展

5月27日(土)～7月9日(日)

ウィーン美術アカデミーの所蔵するクラハナ、レンブラント、ルーベンス、ムリーリョ等の名品を紹介します。

一般 1100円(900円)/高大生 900円(700円)/小中生 600円(400円)
 ※ 括弧内は、20名以上の団体料金